原田さとみ in my life No-12

トルコのフェアトレード農園を訪れて シュタイナーのエシカル・コスメを学ぶ

～“エシカル”とは、人にも社会にも地球にも優しい“思いやり”の行動です～

企画・制作／中日新聞広告局

エシカル・コーディネーターとして、フェアトレードを含むエシカル・ファッションの輸入販売・推進活動を軸に、環境にも社会にも配慮した、エシカル・ライフの提案をしている原田さとみさん。広く多くの方々に、エシカルを自分ごとと感じてもらうため、楽しくおしゃれに伝えよう!と取り組んでいるのがエシカル・ファッションショー。昨年は、COP10など様々なイベントでショーやトークを開催し、エシカルへの注目が高まりました。今回は、そんな“エシカル”についてと、海外視察で訪れたエシカル・コスメ=ビオ化粧品の素材“ざくろ”を栽培するトルコのフェアトレード農園でのお話です。

今年のキーワードは“エシカル”

“エシカル”とは、直訳すると「倫理的な」という意味ですが、一言で「思いやり」と云えます。私たちの幸せの裏側で、弱者への搾取や地球環境破壊などで、誰かが犠牲になっているとしたら、そんなの本当の幸せでしょうか?「これ安いけれどおかしくない?」と、モノの背景に思いを巡らして、社会や環境に優しいか、関わる人たちは喜んでいるかを考えて行動するのがエシカルです。セレクトショップを経営している頃、商業主義のファッション業界では次から次へと新しい商品を生み出し、止めることのできないサイクルに皆が苦しんでいるように見えました。売れるための商品づくりを強いられ苦悩するデザイナーたち、安い賃金で働かされる途上国の生産者たち、いったい誰が喜んでいるのだろう?と疑問がわきました。そんな時、モラルあるクリエイターたちによる“エシカル”という新しいファッションの理念に出会いました。

「エシカル・ファッション」とは、安全なオーガニック素材や、環境に負担をかけない自然素材、リサイクル素材などを使用し、正しい労働条件で公正な賃金のフェアトレードであり、地域の伝統を継承した製法で生産される、良心を大事にしたファッションのことを云います。さらに、適切な価格で、確かな品質で、トレンディーなデザインであることが重要。エシカルに気を配る消費者のみならず、純粋にファッションを楽しみたい消費者のもとにまで届き、エシカルが暮らしの中に自然と存在するために、クリエイターたちのデザイン力が活かされます。そんなエシカルはファッションに限らず、美容・食事・建築・教育・街づくりなど様々な分野にあてはまる概念なのです。

トルコの厳しい自然の中にある農園では、ざくろ生産とともに穏やかな暮らしが営まれていました。

シュタイナーのビオ化粧品こだわりの美意識はエシカル

今年で90周年というビオ化粧品「ヴェレダ」は、哲学者ルドルフ・シュタイナーの人智学に基づいて、自然界にある素材を使って、フェアトレードや社会貢献を基本とするエシカル思想のコスメです。

化学肥料を使わない有機栽培というだけでなく、宇宙の力を取り入れて、地球と植物のリズムで栽培するという“バイオダイナミック有機栽培農法”で育てられた植物が使われます。大地は朝なると息を吐き午後になると息を吸うという1日のリズムや、太陽・月・星のリズム、大地の持つエネルギー、植物・生物の内なるパワーを大事にします。そんな「ヴェレダ」が、私たち40代のために“ざくろ”という素材を選んで新しいスキンケアシリーズを誕生させるということで、エシカル・コスメの真髄を探るべく、スイスのヴェレダ本社と、そのざくろを有機栽培しているトルコのフェアトレード農園まで、視察取材へと行ってきました。

ヴェレダのざくろオイルでハンドマッサージ!スイスの本社で人智学とざくろを学ぶ

トルコでは、ジュースにしたりスキンケアで顔に塗ったり、大変親しまれている“ざくろ”ですが、熱く乾燥した土地で育ち、硬く厚い外皮に覆われた内側には宝石のように艶やかでみずみずしい実が入っていることから、生命力と耽美の象徴とされ、40歳を過ぎたエイジング世代のお肌にふさわしい植物とヴェレダは云います。

トルコの大地は広く人々は温かかった

トルコの“ざくろ”農園までの道のりは平坦ではありませんでした。人里離れた果ての果てまでガタガタ道を車で数時間、丘陵の斜面に広がるざくろの木々の中、小さな家が見えてきました。そこでは農園の家族が私たちのための食事の準備をしていました。外では女性達が火を焚いてパンを焼き、羊の肉のソテーや野菜を巻いたピタパンや自家製ヨーグルトがテーブルに並び、丘の上でのランチをいただきました。おもてなしのお料理は最高においしく、食材の調達もままならない不便で貧しい環境下で、私たち客人のために生懸命に尽くしてくださったその思いに感謝の気持ちで心が温かくなりました。

農園には、愛情こめて丁寧に栽培されている“ざくろ”が元気に実っていました。スイスのヴェレダ社はこのトルコの農園から市場より高い価格で継続的にざくろを買い取っているので、農園の家族は、仕事に誇りをもって励み、子ども達は学校へ通うことができ、将来の夢を持つことができます。この家族みんながずっと元気でずっと笑顔でいられるように、正しき生産背景であるエシカル・コスメを私は選び続けたいと思います。

フェアトレードやエシカルは、周りの誰をも犠牲にしない“思いやりのある製品づくり”を追求します。作る人も売る人も使う人もみんながハッピーであるために、遠く離れた世界のいたるところで先進国と途上国との相互の美しい努力や配慮があって、これからの地球の未来を輝かせてくれていることを学びました。そしてそれがもっと広がってゆくために私のすべきこと感じて帰ってきました。

～エシカル・イベント・インフォメーション～

UNCDR国連地域開発センター主催
「生物多様性と地域開発」にて原田さとみの“フェアトレード&エシカル・ファッションショー”
日時／1月30日(日) 10:30～17:00
会場／名古屋国際センター アネックスホール
ファッションショー&トークは、13:45～14:30
午前中には、ジョン・ギャスライトさんの講演もあります!
参加無料

JICA中部フェアトレード・カレッジ
「生物多様性とフェアトレード inエチオピア」～コーヒーの原生林を守るJICAの取組みと“エチオピア式コーヒー・セレモニー”～
日時／2月27日(日) 14:00～16:30
会場／JICA中部なごや地球ひろば
原田さとみと空木マイカが訪れた、エチオピアの森を守るJICAの活動を紹介し、さとみ&マイカがエチオピア式コーヒー・セレモニーで皆様にフェアトレード森林コーヒーをおもてなし!
参加費：500円　定員：50名(要申込)
お申し込みは、フェアビーンズなごや地球ひろば店
TEL：052-583-6480
メール：fairbeans.shop@gmail.comまで。

Profile | 原田 さとみ (タレント / エシカル・コーディネーター)

モデルデビュー後、タレントとして東海圏を中心に活動。パリ留学を経て、セレクトショップ経営。その間に出産・育児で5年間タレント業はお休みし、その後はお母さんとして、おしゃべり・講演・司会・執筆など活動再開。現在は、エシカル・ファッションの普及活動を中心に、フェアトレードタウン推進にも取り組んでいる。昨年フェアトレード&エシカル商品の輸入販売・推進活動のための「エシカル・ペネロープ株式会社」設立。また国際協力機構JICA中部なごや地球ひろばオフィシャル・サポーターとして、毎月第4土曜にJICA中部にて親子向けの絵本の読み聞かせの会「世界と出会う絵本ひろば“ルププ”」主宰。また飲食店での無料のお水に対して感謝の寄付を募り木曽川流域を支援する「コップなごや水基金」も活動中。春からは財団法人 地球環境財団「エシカルJAPAN」中部地区担当就任。

4月～12月の期間限定で、名古屋テレビ塔1階にフェアトレード&エシカルのお店「エシカル・ペネロープ」をオープン!そのため23日からパリへ買い付けです。4月になったらぜひお店へお越しくださいね!

イベントなどの詳しい情報はこちらで! 原田さとみブログ http://satomiharada.com

フェアトレード(公正な貿易)とは… もともと貿易とは、お互いにないものを融通し合い、みんなが幸せになるためのものでしたが、時代が経るにつれ、強い人が弱い人のものを搾取するという形が生まれてしまった。これを是正しようというのがフェアトレード。途上国の弱い立場にある生産者にとって公平な条件での貿易を先進国が継続的に行い、児童労働・貧困問題の解決や、文化・伝統・環境を守る国際貿易です。

エシカルとは… 地球・自然・環境との調和・融合・共生という、生き方・暮らし方全般を対象とする価値観であり、美意識です。環境に配慮した衣食住であるとか、オーガニックであるとか、フェアトレードであるとか、透明性が高いトレーサビリティであるというだけでなく、エシカルは、自然の恵みをみんなで分かち合う、いのち優先のディープエコロジー。自分の心や身体によい生活をするロハスや、人間の利益のための環境保全のエコからさらに踏み込んで、人間優先でなく、他を思いやり、支え合い、つながっているという自然の摂理を尊重するライフスタイルです。